

2026 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

鈴木 健 介 (虎の門病院)

この度、JUA/EAU Resident Programme の一員として、2026年3月にイギリス・ロンドンで開催された the 41st Annual EAU Congress (EAU26) に参加させていただきました。専攻医1年目での参加となり、初めての海外学会・英語環境への不安もありましたが、共に参加した東京科学大学の田中先生、神戸大学の岡本先生にもお世話になりながら無事終えることができました。

学会に先立つ Hospital tour では、タワーブリッジ近く、ロンドン中心地に位置する Guy's Hospital を見学しました。Guy's Hospital はイギリス最大規模のがん診療拠点施設であり、da Vinci や Hugo を含め10台以上の手術支援ロボットを有していました。手術見学の際にも、da Vinci のデュアルコンソールを用いた泌尿器科手術が2件並列で行われており、規模の大きさと非常に充実した研修環境を実感しました。泌尿器科医も20名以上の体制で、がんや結石など各領域で英国をリードする診療が各分野に分かれて行われている点が印象的でした。また、Guy's Hospital は後腹膜線維症 (RPF) の診療でも知られ、世界各地から沢山の患者が治療を求めて集まる施設でありました。当日は RARN に加え、RPF に対する robotic ureterolysis を見学しました。RPF の手術では、尿管剥離後に大網で尿管を包み再発を防止する工夫など、日常診療では馴染みの薄い術式を実際に見ることができ、大変勉強になりました。術後のステントフリー率は9割と伺い、とても有意義な治療であると感じました。見学後は先生方とパブでビールを飲みながら、日本とイギリスのキャリア形成や研修の仕組み、プライベートの話まで幅広く伺うことができ、終始温かい雰囲気の中で

交流させていただきました。

EAU26 は、まずその規模に圧倒されました。膨大なセッションが並行して進み、世界の最新知見が一度に集約される場としての迫力を体感しました。私は前立腺癌関連の発表を中心に聴講しました。PSMA PET や Stockholm3 に関する報告は特に興味深く、日本においても今後益々臨床導入されていくのではないかと期待の膨らむ内容でした。また Live Surgery では、4つの会場の手術が巨大スクリーンに同時中継され、ヘッドホンのチャンネルを切り替えて視聴する形式が新鮮でした。執刀経験のある術式を中心に拝見し、術者の判断や細かな工夫がより具体的に理解でき、今後の診療に活かすことのできる学びが多くありました。さらに若手泌尿器科医が集う YOUR Party では、クラブ形式の会場で大音量の EDM が流れる中、海外ならではの盛り上がりで圧倒されつつも、拙い英語で何とかコミュニケーションを取り、交流やダンスを楽しめたことは良い思い出です。

最後になりますが、本プログラム参加の機会を与えて下さいました JUA・EAU 関係者の皆様、病院見学を受け入れてくださった Guy's Hospital の皆様、快く送り出してくださいました虎の門病院の皆様、心より御礼申し上げます。また、推薦ならびに日頃よりご指導を賜っております虎の門病院泌尿器科部長の浦上慎司先生にも深く感謝申し上げます。



写真1 Hospital tour 後 Guy's Hospital の先生方とビールで乾杯



写真2 EAU の会場にて田中先生、岡本先生と記念撮影